

偉大でグローバルな中堅企業をめざして ～タイムワンハーフ活動とセグメント別新組織

A Distinguished and Solid Company with a Global Reach

ホリバは創業50周年を1995年に迎えたのを機に次なる50年に向けて「第二の創業」を掛け声に、各種のイノベーション活動をスタートさせました。とくに現在のように世の中が早いピッチで変革し、グローバル化している中で過去の延長線上や経験だけに基づく活動や改革は、建前ばかりで、満足のいく成果は得られないと考えます。

そこで、ホリバの明確な企業イメージ「偉大でグローバルな中堅企業」を揚げ、大企業でもなく中小企業でもない、筋肉質で、生き生きとした、若々しい、運動神経の発達した企業体を作り上げる事を目標としました。そして、その活性度を上げるための最初のスタンスは「攻めのオペレーション」です。ここ数年の円高等による厳しい企業環境の中で、全ての職務を半分の時間で完了しようと言う「タイムワンハーフ活動」をスタートさせ、その活動をベースにした新製品が次々に好成績をおさめています。全社的にこの活動がホリバリアン(ホリバで働く人の総称)のマインドに定着し基盤が整備されつつあり、次は飛躍のための積極策を全社に展開しています。

将来の計測器分野の活動ポテンシャルが大きい、医療分野の業容の拡大とグローバル化のために、ヨーロッパでは血球カウンターで最大手のフランスABX社の買収を行い、また、現在最も伸び率が高く分析技術が今後大いに必要とされる半導体ビジネスの強化のために、マスフローの世界シェアのナンバーワンとなった子会社のエステックの増資、および本社最新鋭工場の建設、優秀な中堅技術者の積極的な交流等を実行しました。さらに、これらの活動をきめ細かくサポートするためと、自動車、環境、工業、理化学等の既存ビジネスを強化し、より市場志向型のオペレーションを具現化するために、昨年の秋から新組織をスタートさせました。

この新組織は、エンジン計測システム、分析計測システム、半導体計測システム、医用計測システムの4つのセグメント別統括部と5つのビジネスサポートセグメントから成り立っています。今までの企画、営業、開発、設計により編成されていた機能別組織とは異なり、製品群別の各セグメント内に独自の企画、開発、営業等のグループが存在するため、製品へのトータルな視野を持つことができ、顧客に対しても専門知識をベースにきめ細やかな対応と、国内だけでなく世界規模での、より組織だった対応が可能となりました。また、セグメントサポート部隊は、製造、サービス、業務、営業推進、基礎開発機能など全社共通とし、企業規模を生かす組織となりました。

情報関係の投資も積極的に行い、一年半で全社員の2人に1台のレベルに当たる600台のPCを配置し、情報共有のため、22台のWindows-NTサーバーを設置しました。このサーバーの中の4台はアメリカ・ヨーロッパの子会社に設置するとともに、サーバー間の常時接続のため、国内は専用線とフレームリレーを、海外子会社には国際フレームリレーを導入し、英語・日本語のEメールや電子掲示板の本格運用を実施しました。なお、このネットワークおよびPCは基幹業務のインフラとしての利用も考慮しています。



代表取締役社長

堀場 厚

Atsushi HORIBA

President

こうしてホリバのネットワークが構築されたことにより、グループ間のコミュニケーションが密になり、これまで本社、子会社で別々に展開していた事業も、常に強力な本社のリーダーシップで世界的規模で対応可能となりました。今後とも各地域の特殊性を配慮し、グループ間で情報を共有しながら、世界的時間軸と規模で市場に対応していきます。より強固なグループ企業を創出するためには、いわば企業の細胞分裂的な連鎖的成長と、各種の機能を持ち合わせた専門家からなる細胞が、情報ネットワークで一つにつながり、機能することが大切だと考えています。

我々の改革は第二のステップアップの段階に入ってきています。これらを着実に実行して、今後とも「偉大でグローバルな中堅企業」をめざし、保守的になることなく、創業当時のチャレンジ精神を奮い起こし、よりダイナミックに限りなく成長する事を目指します。